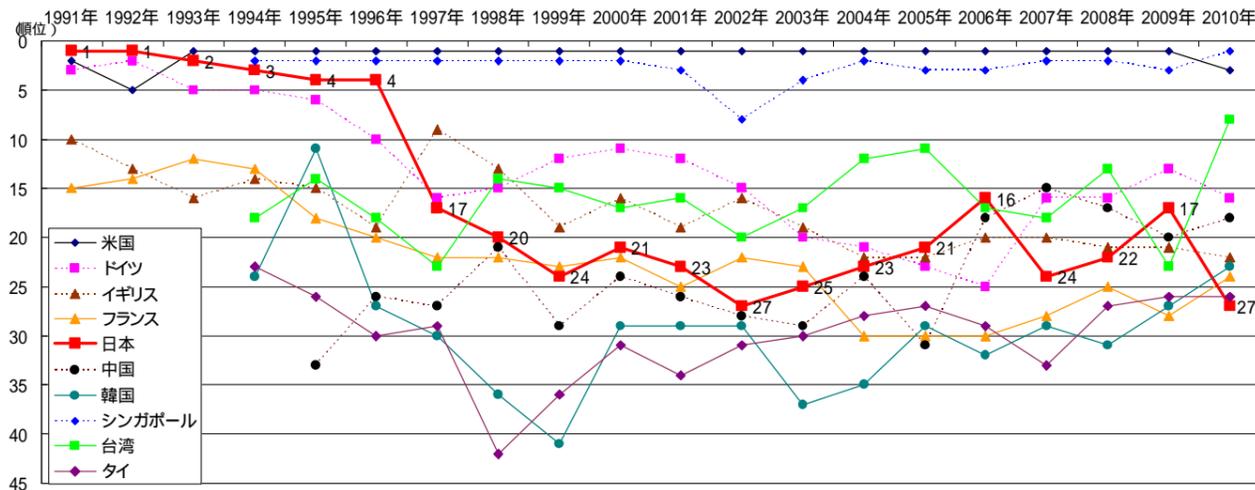


首都圏の社会資本整備に関する背景と課題

日本の国際競争力の低迷

日本の国際競争力は1990年代前半にはトップクラスにあったが、その後大きく低下し、欧米や台頭する東アジア諸国に対して低迷

日本の国際競争力の推移



(資料) 国際経営開発研究所 (IMD) 公表の国別国際競争力ランキングにより作成

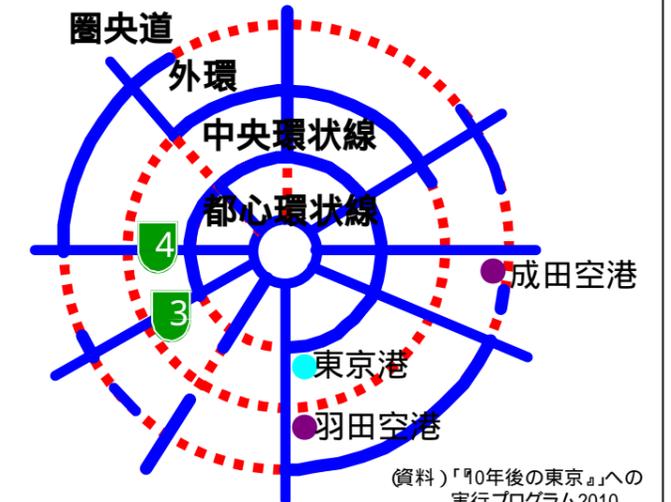
課題 1) 海外主要都市に比べ遅れた環状道路整備

首都圏三環状道路の整備の遅れにより、慢性的な交通渋滞が発生し、社会経済活動が低下するとともに、環境への負荷が増大

三環状道路の整備率：47%

<平成22年4月>

海外主要都市の環状道路整備率		
ロンドン	ベルリン	パリ
100%	97%	85%
ソウル	北京	上海
100%	100%	85%

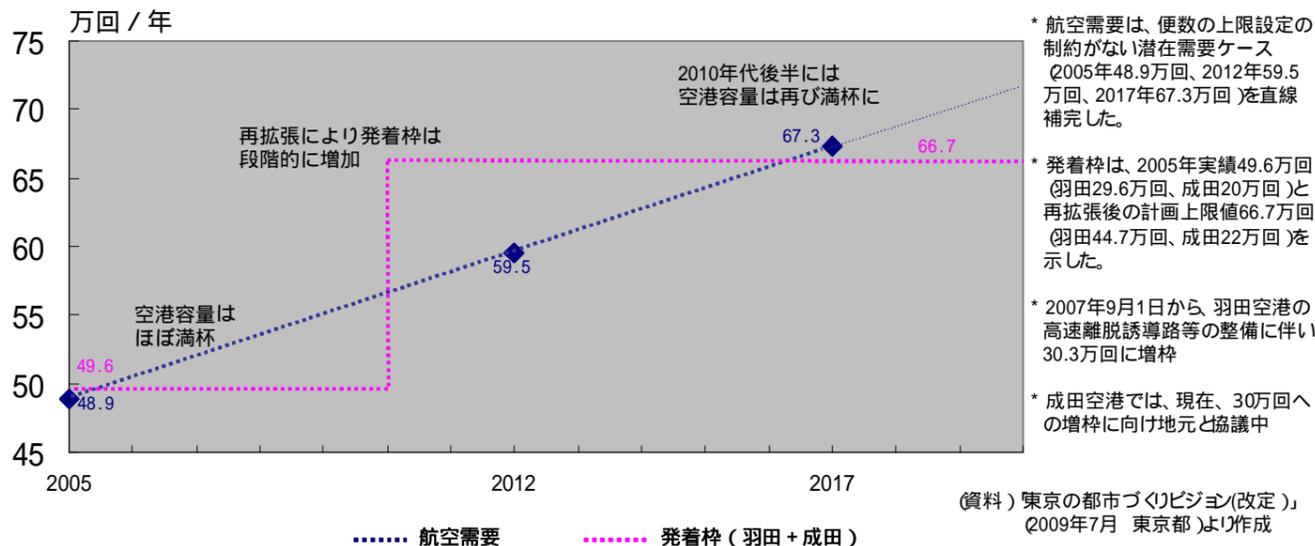


(資料) 「10年後の東京」への実行プログラム2010 (2010年1月 東京都)

課題 2) 将来の首都圏の空港容量は限界

羽田空港及び成田空港における将来の空港容量の制約は、首都圏の国際競争力強化の阻害要因

羽田空港及び成田空港の航空需要及び発着枠の予測



課題 3) アジア諸港の躍進により相対的地位が低下

国際コンテナ物流について、船舶の大型化に合わせ、大規模・大水深の港湾整備を進めるアジア諸港が躍進する中、我が国主要港湾の地位低下

世界の港湾別コンテナ取扱量の推移

198年		200年 (単位:千TEU)	
港名	取扱量	港名	取扱量
1 ニューヨーク/ニュージャージー	1,947	1 シンガポール	29,920
2 ロッテルダム	1,901	2 上海	27,980
3 香港	1,465	3 香港	24,490
4 神戸	1,456	4 深セン	21,410
5 高雄	979	5 釜山	13,430
6 シンガポール	917	6 ドバイ	11,830
7 サンファン	852	7 寧波 舟山	11,230
8 ロングビーチ	825	8 広州	11,000
9 ハンブルク	783	9 ロッテルダム	10,800
10 オークランド	782	10 青島	10,320
12 横浜	722		
16 釜山	634	24 東京	4,160
18 東京	632	29 横浜	3,480

(資料) コンテナリゼーションインターナショナル (国内港は内貿コンテナ取扱量を含む)